

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月5日(金)
 児 童 3年1組 男子11名 女子12名(5校時)
 3年2組 男子11名 女子12名(6校時)
 指導者 金野 浩二
 坂川 靖子

- 1 単元名 せつめいのしかたを考えよう
 教材名 「すがたをかえる大豆／食べ物のひみつを教えます」

2 単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動	第3学年 「読むこと」(2)イ 「食べ物のひみつブックを作って、全校のみんなにつたえよう。」
言語活動の説明	読み取ったことをもとにひみつブックをかく。 <情報解釈力に関わって> 中心となる語や文を捉え、文章の構成に気を付けながら読むことで、分かりやすく説明するための工夫を理解する。 <自己活用力に関わって> 分かりやすく説明するための工夫について読み取ったことをもとに、書いたり話したりする。
必要とされる知識・技能	①題名 ②題材名 ③事例 ④イラストとの対応 ⑤説明の文章 ⑥中心文 ⑦段落 ⑧接続語 ⑨文末表現

3 単元について

(1) 児童について

子どもたちはこれまで「読むこと」の説明的文章の学習として、「ありの行列」を読み取る活動を行い、「はじめ」「中」「終わり」の文章の組み立てを意識して、「問い」と「答え」を見つけながら、段落ごとにどんなことが書いてあるか読み取ることができるようになってきた。

そこで、子どもたちに次に身に付けさせたいのは、各段落の中心となる文をしっかりと見極め、そこから段落相互の関係をしっかりと捉える力である。これは、文章全体のおおまかな構成は捉えているが、段落の中心となる文を見つける力が十分とはいえないからである。

また、「書くこと」の学習として、「報告する文章を書こう」では、調べた題材(記号)の中から数個選び分かったことや感想などを書く学習を行った。調べたきっかけや理由、調べ方など事柄ごとに段落を分けて書くことができていた。

そこで、次に付けていきたいのが、書こうとする中心を明確にし、それを分かりやすく伝えるために事例を挙げながら書く力である。これは、見つけたものを羅列的に書く児童も多く、書こうとすることの中心を明らかにしようとしながら書く意識が薄いためと思われる。

【身に付けさせたい力】

- 書こうとする中心を明確にし、事例を挙げながら書く力
- 中心となる語や文を捉え、文章の構成に気を付けながら読む力

(2) 教材について

本単元は「読むこと」と「書くこと」の複合単元である。第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」である。「書くこと」の目標は「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」である。

これを受けて、教材「すがたをかえる大豆」は、子どもたちに身近な食べ物である大豆をおいしく食べる工夫について具体例を挙げながら説明している。「はじめ」に明確な問いがないものの、

「はじめ」「中」「終わり」が分かりやすく書かれている。「中」では、各段落の1文目に中心となる工夫があり、2文目以降に食品の説明を記述する形式を取ることによって、各段落の中心を捉えやすくしている。また、それぞれの「くふう」は加工の手間にかかる順序を意識して、接続語を効果的に使って説明をしている。

「食べ物のひみつ教えます」は、身近な食材について例を挙げて説明する文章を書く教材である。文章を書く際には「すがたをかえる大豆」の文の構成を生かすことで分かりやすい文章とは何かを考えさせることができると考える。

これらのことから、本教材はわかりやすい説明のしかたを読み取り、それを生かして説明をする文章を書くのに適した教材であると考ええる。

(3) 指導にあたって

子どもたちの実態や教材の特性から本単元で身に付けさせたい力を「中心となる語や文を捉え、文章の構成に気を付けながら読む力」「書こうとする中心を明確にし、事例を挙げながら書く力」とした。

そこで、第一次では、食べ物についてクイズを出したり、本を紹介したりすることで、姿を変える食べ物についての知識や興味・関心を高めさせていく。そうすることで、「食べ物のひみつブックを作って、全校のみんなにつたえよう」という単元のゴールと、「そのためにどんな書き方をすればいいか知りたい」という目的、ゴールに向かう見通しを明確にさせる。

第二次では、「どんな書き方をすればわかりやすくなるか」という目的意識をつねにもたせる。そのために、まず、文章全体の構成を表にまとめさせ、「はじめ」「中」「終わり」の全体の構成の確認や一つの段落に一つの工夫といった一段落一事項の工夫がなされていることに気付かせる。また、「中」の各段落では、「くふう」→「食品例」の構造をサイドラインで色分けするなどして、中心文→事例という頭括型の表現方法のよさに目を向けさせる。さらに、接続語や文末表現、イラストの効果なども押さえ、筆者の工夫が多くちりばめられていることにも気付かせたい。

そして、第三次では、第二次で学んだ「書き方の工夫」を活用して、各自が並行読書してきたものから選んだ食材を使って「食べ物のひみつブック」としてまとめさせる。その際には書く材料のメモを付箋紙に分けて書かせたり、付箋紙を動かして書く順序を整理させたりしながら中心を明確にして書くことを意識付けさせたい。

これらの点に留意して指導することにより、子どもたちに「中心となる語や文を捉え、文章の構成に気を付けながら読む力」とともに「書こうとする中心を明確にし、事例を挙げながら書く力」が身に付くものと考ええる。

4 単元の指導目標

◎書こうとする中心が明確に伝わるよう、理由や事例を挙げて調査報告文を書くことができる。 「書くこと」ウ

◎目的に応じて、中心となる語や文を捉え、筆者の考えと事例など段落相互の関係を考えながら読むことができる。 「読むこと」イ

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・姿を変える食べ物について関心をもって本などの資料を読み、分かりやすく説明しようとしている。	・調査の結果とそこから考えたことなどが明確に伝わるよう、理由や事例を挙げて調査報告文を書いている。	・自分の課題や必要な情報を見つける上で中心となる語や文を捉え、筆者の考えと事例など段落相互の関係を考えながら読んでいる。	・文や段落相互の関係を示す手がかりとしての接続語の役割を理解し、用いている。

6 指導計画及び評価規準 (「読むこと」6時間、「書くこと」7時間 計13時間)

次	時	学習活動	□評価規準 ◇身に付ける知識・技能	身に付けさせたい力と そのために用いる手立て				
				課題設定力	資料活用力	情報解釈力	自己活用力	相互交流力
一	1 ・ 2	○「食べ物変身クイズ」で、姿を変える食べ物について興味をもつ。 ○姿を変える食材について、調べたことを「食べ物のひみつブック」にまとめる学習の見直しをもつ。 ○調べたい食材に関する本などを読む(並行読書)。	□分かりやすい説明のしかたを考え、姿を変える食べ物について説明し合うというねらいを理解し、取り組もうとしている。【関】 知識・技能 ①題名 ②題材名 ③事例 ④イラストとの対応 ⑤説明の文章 ⑥中心文 ⑦段落 ⑧接続語 ⑨文末表現	○学習計画、知識・技能	○並行読書			
二	3	○「はじめ」「中」「終わり」の構成で説明されていることを整理しながら、文章全体の組み立て方や書き方に注意して、「すがたをかえる大豆」を読む。	□「はじめ」「中」「終わり」という文章の構成を読み取り、「問い」の形をとらない話題提示があることを理解し、「問い」の文章を作っている。【読】 ◇①題名 ②題材名 ③事例			○文章の構成、他の文章との比較		
	4 本 時	○「中」の各段落がどのように書かれているのかを捉え、筆者の説明の仕方の工夫を考える。	□「中」の各段落で、おいしく食べる工夫がどのように書かれているのかを捉え、筆者の説明の仕方の工夫をまとめている。【読】 ◇⑤説明の文章 ⑥中心文 ⑦段落			○比較		
	5 ・ 6	○「中」の段落の書き方が効果的かを確かめる。	□筆者の分かりやすい説明のしかたの工夫に気付き、まとめる。【読】 ◇④イラストとの対応 ⑧接続語 ⑨文末表現			○接続語		
三	7	○並行読書した中から題材をひとつ選び、どのように姿を変えて食べられているか調べる。	□食べ物について関心を持ち、課題に合わせて調べたり書いたりしている。【書】 ◇①題名 ②題材名 ③事例 ④イラストとの対応		○並行読書			
	8 ・ 9	○調べたメモから必要な情報を選び出し、書こうとすることを決める。 ○全体の構成を考え、「終わり」をかく。	□伝えるために必要なことを選び出し、構成している。【書】 ◇②食品名 ⑤説明の文章				○蓄積活用	
	10 本 時 ・ 11 ・ 12	○「すがたを変える大豆」や教材児童例「すがたをかえる米」を参考にして、「はじめ」「中」「終わり」の構成で、具体例を示しながら書く。	□「すがたをかえる大豆」や教材児童例「すがたをかえる米」の構成を生かして具体的な例を挙げて書いている。【書】 ◇⑤説明の文章 ⑥中心文 ⑦段落 ⑧接続語 ⑨文末表現				○蓄積活用	
	13	○「食べ物のひみつブック」を読み合い、それぞれの感想を伝える。 ○上手に説明するポイントを整理し、単元の学習を振り返る。	□単元を通して学んだことや身に付けた力についてふり返り、自分の成長を感じている。【関】 □自分の書き方と友達の書き方とを比べて分かりやすく説明しているところに気付いている。【書】					○視点、整理

7 本時の指導（3年1組 第二次第4時）

(1) 本時の目標

「中」の各段落で、おいしく食べる工夫がどのように書かれているのかを捉え、筆者の説明の仕方の工夫をまとめることができる。

(2) 本校の研究に関わって

情報解釈力 「教材文を課題に即して詳しく読み、書かれている意味や内容、構造、意図などを把握する力」



中学年 「課題に合った箇所を見つけて引用、要約したりしながら語や文をもとに課題に合った読み取りができる。」

(3) 本時の指導

	学習活動、発問 (○)	指導上の留意点 (・) 手立て【 】
つかむ 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の課題を把握する。 おいしく食べるためにどのようなくふうをしてきたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成表から教材文が「はじめ」「中」「終わり」で構成していることを確認させ、それを大切に文章を書いていくことを捉えさせる。 「問い」と「まとめ」を確認し、「中」にはどのようなくふうを具体例として挙げてあるかを読み取っていく必要性を捉えさせる。
ふかめる 37分	3 大豆をおいしく食べるための「くふう」を読み取る。 ○「いくつのくふうにまとめられて書かれていますか。」 ○「はじめにでてきた食品はどなんなくふうをしているといえよいでしょうか。」 ○「3～7段落の書き方で似ているのはどなんところですか。」 4 筆者の書き方の工夫をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 食品の数や「中」にある形式段落の数に目を向けさせながら、工夫の数を考えさせる。 最初の具体例である第③形式段落に食品「いり豆」「に豆」がどなんなくふうとしてまとめているかを捉えさせる。 「くふう」が書かれてある文にサイドラインを引かせ、文章の構造を視覚的に捉えさせる。 「中」の形式段落の数と工夫の数の関係を考えさせる。 「一つの段落に一つの工夫が書かれていること」「『くふう』→『食品』という順序で書かれていること」を捉えさせる。 「一段落一事項」を無視した表現や『くふう』→『食品』という順序を気にせずに書いた文章を提示して、表現方法のよさを実感させる。 【筆者の工夫を無視した文との比較】
まとめる 3分	5 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の工夫「最初においしく食べる工夫（中心文）を書く。まとめて1つの工夫にしている」を捉え、自分の紹介する食べ物につなげられそうかを振り返らせる。

(4) 本時の評価規準

おいしく食べる工夫がどのように書かれているのかを捉え、筆者の説明の仕方の工夫をまとめている。 【読 (イ)】

8 本時の指導（3年2組 第三次第10時）

(1) 本時の目標

中心文とそのくわしい事例などをつかって、「中」の文を書くことができる。

(2) 本校の研究に関わって

自己活用力 「身に付けた技能や読み取ったことに自分の思いや考え、生活経験などを加えて目的や課題を達成する形にまとめる力」



中学年 「身に付けた技能や読み取ったことをもとに思いや考えを課題に合った方法でまとめることができる。」

(3) 本時の指導

	学習活動、発問 (○)	指導上の留意点 (・) 手立て【 】
つかむ 5分	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>食べ物のひみつブックの「中」の文をわかりやすく書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で書いた「終わり」の部分を発表させたり、紹介したりすることで、「中」を充実させようという意欲をもたせる。 ・短冊型罫紙を提示し、一段落一事項の書き方を意識させる。
ふかめる 37分	<p>3 食べ物のひみつブックの「中」の文を書く。</p> <p>(1) 段落の中の文の組み立てを考える。</p> <p>○「すがたをかえる米」中心はどれでしょう。</p> <p>○「集めた材料を書いた付箋の中で中心文に使う付箋はどれですか。」</p> <p>(2) 文を組み立てる注意点を考える。</p> <p>○「中心文の後に続く文章はどのようにつなげるとよいでしょうか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視点としてきた書き方（段落、中心文が先にくる書き方）に着目させ、「中」の文を書くことを確認させる。 【蓄積してきたことの活用】 ・教材児童例「すがたをかえる米」と教材文「すがたをかえる大豆」の中心文の作りの違いに気付かせる。 ・加工方法の後に食品を紹介する形式と食品の後に姿の変え方をくわしく説明する文を書く形式のどちらの文ができそうか考えさせる。 ・中心文のみを試しに書かせ、どんな形式にするか考えさせる。 ・メモをつなげるだけでは文にならない例を提示して、つなげ方を考えさせる。 ・難しい言葉は例を挙げて分かりやすい言葉にかえさせる。
まとめる 3分	<p>4 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「すがたをかえる大豆」で筆者が使った一段落一事項や頭括型の文章構成の技を活用できたか確かめさせる。

(4) 本時の評価規準

食品を中心文として、その後に加工の仕方を説明した構成を使い、一段落一事項の「中」の文を書いている。 【書(ウ)】